

①	今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> ・基礎的、基本的な知識技能の力の定着 <指導上の課題> ・基礎的な読み、書き、計算の取組にける時間を十分に確保する必要がある。 ・教科担任等により、授業時間外などにおける弾力的な補習や反復した指導が十分でない。	⇒	令和5年度のさいたま市学習状況調査の結果をもとに、各学年のスキルタイム(朝活動の時間)の内容を精選し、系統立てて、計画的に継続して取り組めるようにする。【スキルタイムを含めたカリキュラムマネジメントの実施。】
思考・判断・表現	<学習上の課題> ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」の力の定着 ・既習を生かした自力で考える学習や協働的な学習 <指導上の課題> ・児童一人ひとりに合わせた指導、支援の個別対応や、思考を広げる協働的な学習への効果的な取組につなげていく必要がある。	⇒	学校全体の研修と関連付け、個別最適な学び、協働的な学びを柱に据え、スクールタツシヨード等の活用によって、児童の習熟度や達成度を把握し、個々の実態に応じた指導、支援を繰り返し行う。【毎学期1つ以上、重点を置いて指導する単元を設け策を実施する。】

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	算数では、「計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」「直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる」問題において、つまづきのある児童が多く見られた。一方、それ以外の問いにおいては、授業改善やスキルタイム等の効果もあり、一定の成果が伺える結果となっている。また、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」という質問について、98%の児童が肯定的に回答している。基礎的・基本的な内容に関する児童の苦手な内容について、一人ひとりの実態を教師が把握し、適切な指導・支援が継続されていることが伺える。
思考・判断・表現	「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる」「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる」問題において、つまづきのある児童が多く見られた。一方、「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる」問いに関しては、学習計画を児童の実態に応じて工夫した成果もあり、力の伸びがみられた。「ICT機器を活用した授業について、「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」「友達と協力しながら学習を進めることができる」と肯定的に回答した児童が100%である。思考力・判断力・表現力の育成において必要となる「ICTを活用して児童同士で考えや意見を共有する時間」を学習計画の中に効果的に位置づけ続けた成果が表れ、児童が一人も取り残されずに、学習活動に主体的に参加できている実態が伺われる。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	スキルタイムの系統的な指導に合わせて、児童一人ひとりの習熟度を各担任が把握し、適切な課題をスキルタイムに取り組ませている。	変更なし
思考・判断・表現	C	重点を置いて指導する単元を設け、児童が、主体性をもって協働的な学びを展開することはできている。一方、個別最適な学びの実現に向け、児童の実態に即した適切な学習方法を、児童自ら選択することについては、まだ課題である。	自分の力を明確に把握し、自らの学びを調整する力を児童に培うために、学校課題研究の時間を主として、「目標設定」「学習方法の選択」「振り返り」の3つの視点から授業改善策を立案し、実施する。

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	本校の正答率がさいたま市のものより高い問題区分は、6年生算数「図形」・理科「大地」「生命」、5年生算数「データの活用」・理科「大地」「生命」、4年生算数「データの活用」「数と計算」、3年生国語「話すこと」「書くこと」などであった。年間指導計画と照らし合わせると、学習状況調査の直前に学習した内容であった。このことから、授業で学んだことを理解し活用することはできている一方、その力を継続することに課題がある児童が多いことが考えられる。
思考・判断・表現	生活習慣に関する調査項目35の「授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか。」及び、項目36の「自分と違う意見について考えるのは楽しいですか。」の回答が、全学年で肯定的な割合がさいたま市平均を超えた。個別最適な学びと協働的な学びを一体的にとらえた授業計画、展開の継続が、児童の他者と関わり合うことへの肯定的な価値観を育み、思考力、判断力、表現力の伸長につながっていると考えられる。

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	算数科・国語科の同集団経年比較(令和5年度第3学年～第5学年と令和6年度第4学年～第6学年)の結果として、第4学年算数科・国語科、第5学年国語科、第6学年算数科・国語科における学力の向上が見られた。教科担任制により教員の指導内容への理解が深まり、朝のスキルタイムにおける活動内容を児童の実態に即したものを実施し続けた成果が現れていると考えられる。
思考・判断・表現	B	算数科・国語科の同集団経年比較(令和5年度第4学年～第5学年と令和6年度第5学年～第6学年)の結果として、算数科における「データの活用」また、国語科における「話すこと・聞くこと」において、学力の向上が見られた。全教員が教科種関係なく、学校課題研究において「自分の力を明確に把握し、自らの学びを調整する力を児童に培う」ための授業改善を計画、実施、継続した成果が現れていると考えられる。

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	教科ごとの学習内容とスキルタイムの繋がりがより明確にし、年間指導計画に明記することで、いつでも誰でも一定の質を保ったスキルタイムが実施できるようにする必要がある。また、児童が自分の基礎的・基本的な力の実態把握と課題設定を主体的に取り組む姿勢を培うために、さいたま市学習状況調査や単元の評価テストだけでなく、スキルタイムに取り組んだ内容をその場で評価する(自己採点、友達との相互評価等)活動を確実に実施していく必要がある。
思考・判断・表現	教員が各々の指導観に添った授業改善策を進めた成果が明確に児童の姿でみられる。(④、⑤に記載)一方、次年度は、前年度(令和6年度)に学んだ学習方法を児童が継続して活用することで、習得し、他教科や実生活にも生かせる姿を求めたい。そのために、学校全体で授業スタイルや児童の学習方法選択の支援策等の共通理解を図り、計画的に継続して実施していく。

※評価
 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一步)

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【柏崎小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	全体的には、基礎・基本的な知識・技能の力の定着が図れてきた。令和3年度より向上傾向が続いている。全校一斉にスキルタイムを実施することで、ドリルなどの反復練習する時間を確保してきた。しかしながら、「朝の状態の入力」や「ICTスキルタイム」の増設など、新しい方策に時間を確保する必要が生じるなど、さらにカリキュラムマネジメントの工夫が必要になってきている。
思考・判断・表現	全体的には、基礎・基本的な思考・判断・表現の力の定着が図れてきた。令和3年度より向上傾向が続いている。さいたま市「アクティブラーニング」型授業を意識して取り組んできた。学校課題研究とも絡め、グループでコミュニケーションを取りながら、協働的に課題を解決することで、思考力を高めていく取組を行ってきた。次年度も継続していきたい。
主体的に学習に取り組む態度	各教科で導入の工夫を行い、主体的に学ぶための「なぜ」「どうして」「もっと知りたい」「やってみよう」というような仕掛けを実施することで、意欲を高めることができた。来年度は学校課題研究の内容に「ルーブリック評価」を取り入れ、自ら目標と取り組み方を考え、仲間と協働しながら学習を進める方式を取り入れ、主体的に学習に取り組む態度を養っていく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	令和4年度全国学力・学習状況調査の自校結果より、国語・算数の「知識・技能」において、3pt向上させる。令和4年度さいたま市学力・学習状況調査の自校結果より、国語・算数の「知識・技能」において、3pt向上させる。	⇒ 業前の時間に、週1回以上「スキルタイム」を設定。カリキュラム・マネジメントにより、基礎的な知識や技能を習得する学習時間を確保する。
思考・判断・表現	令和4年度全国学力・学習状況調査の自校結果より、国語・算数の「思考・判断・表現」において、3pt向上させる。令和4年度さいたま市学力・学習状況調査の自校結果より、国語・算数の「思考・判断・表現」において、3pt向上させる。	⇒ さいたま市「アクティブラーニング」型授業の実現に向けた授業改善として、どの教科でも協働的な学びを充実させる。学校課題研修と絡め、視点と手立てを持ち、改善させる。
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査「学びに向かう力等」の質問項目における、「国・算・社・理」の「各教科の勉強は好きですか」の項目で前年度を3pt上回る。	⇒ 各教科で導入の工夫を行い、主体的に学ぶための原動力である「なぜ」「どうして」「もっと知りたい」「やってみよう」というような仕掛けを実施する。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	令和5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、令和4年度と同結果と比較し、国語は+18pt、算数は+8ptであった。令和5年度さいたま市学力・学習調査の「知識・技能」において、令和4年度と同結果と比較し、国語は小3-15.4pt/小4-8.9pt/小5+6.1pt/小6-6.4ptであった。算数は小3-4.1pt/小4+14.3pt/小5+0.3pt/小6-1.6ptであった。	B
思考・判断・表現	令和5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、令和4年度と同結果と比較し、国語は+8.5pt/算数は+8.5ptであった。令和5年度さいたま市学力・学習調査の「思考・技能」において、令和4年度と同結果と比較し、国語は小3+8.9pt/小4+26.8pt/小5+1.9pt/小6-3.5ptであった。算数は小3+0.2pt/小4-2.8pt/小5+5.7pt/小6-3.2ptであった。	A
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査の質問項目における、「国・算・社・理」の「各教科の勉強は好きですか」の項目では、令和4年度と比較し、国語小3-2.1pt/小4+2.9pt/小5+19pt/小6+1.6pt、算数小3-10pt/小4+20.5pt/小5-1.3pt/小6-1.5pt/社会小3-10.7pt/小4-2.8pt/小5-25.3pt/小6-8.5pt、理科小3+10.7pt/小4-3.5pt/小5-10.5pt/小6-2.1ptであった。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+18pt、算数+5ptであった。国語の同音異句を答える問題にて、言葉の意味を正しく理解しながら、適切な答えを導く問題にて、正答率が低く、無解答率が多かった。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+6pt、算数+8ptであった。算数の2つのグラフを読み解き、比較して答える問題にて正答率が低く無解答率が多かった。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「国語・算数の勉強は好きですか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は、国語で+2.1pt、算数で+9pt上回っていた。より一層、子ども興味を引き出す導入となるような授業改善に努める。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析 ※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。			
小3	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語-15.2pt、算数-4.1ptであった。国語の同音異義語の問題において課題がみられた。算数では、かけ算の筆算に課題があった。教科への興味関心については、国語が75%64.3%であり、算数にやや低い傾向が見られた。	小4	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語-9.4pt、算数+14.3ptであった。国語においては、主語と述語などの文法に課題があった。教科の興味関心については、国語は81.8%・算数は75.8%と、両教科とも肯定的な回答の割合が上昇していた。
小5	国語では「必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと」に課題がみられた。昨年度課題がみられた漢字を正しく使う問題では、類似問題の経年での比較より、正答率の上昇がみられた。引き続き、漢字の意味を考える活動を大切にしていこう。	小6	算数では、「円グラフに表されている事柄を読み取ること」に課題が見られた。算数の教科だけでなく、社会や家庭科の資料の読み取りなど、他教科や普段の生活でも意識してグラフを読み取ることを心掛けていく。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)			
	目標		策
知識・技能	変更なし	⇒	変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒	変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし